



地方独立行政法人青森県産業技術センター

畜産研究所ニュース

第 1 号
2015.5.19

【就任ごあいさつ】

このたび畜産研究所の所長を拝命いたしました。当研究所は昭和 31 年に公立の研究機関としては全国初となる青森県畜産試験場として設立され、以来約 60 年にわたり、試験研究の面から青森県の畜産振興を支えてきた伝統ある組織であります。私のような若輩がこの歴史を継承していかねばならないと考えますと、身の引き締まる思いです。

当研究所は平成 21 年度から地方独立行政法人青森県産業技術センターの元に「畜産研究所」となりました。産業技術センターは工業、農林、水産、食品加工の 4 分野 13 研究所を一元化した組織であり、新たな生産技術の創出や農工一体となった産業技術の開発等を通じ、生産者、事業者の方々の収益力向上に資する身近な研究機関という役割を担っております。

こうした中、当研究所では、本年度これまで以上に「稼ぐ研究機関、生産者や事業者を儲けさせる研究機関」を目指し、畜産バイオテクノロジーを駆使した優良種雄牛の造成、低コスト省力的な家畜の管理技術、高品質な牛肉や鶏肉鶏卵生産技術、高栄養トウモロコシサイレーシの生産に向けた栽培調製技術などの開発に重点的に取り組みます。

当所が畜産関係者から信頼され、将来にわたって維持発展していけるよう職員全員で日々努力して参りますので、今後ともよろしくお願いいたします。



畜産研究所長 石山治

【平成 27 年度の普及する技術の紹介】

黒毛和種種雄牛「平安平」（ひらやすひら）の現場検定成績

黒毛和種種雄牛「平安平」（三戸町大平美智夫さん生産）は、26 年度に終了した現場後代検定成績で、**脂肪交雑 7.8**（平成 14 年度から行っている現場後代検定の成績で 57 頭中歴代 1 位）、**上物率 81.3%**（// 歴代 2 位）、**5 等級率 56.3%**（// 歴代 1 位）の好成績をあげ、「第 1 花国」の娘牛との相性も抜群であることから、県の基幹種雄牛に指定され、全県的に普及に移すこととしました。

※詳しくは青森県産業技術センターの HP、もしくは青森県家畜市場の HP で



～最新情報～

平成 27 年 4 月の最新育種価評価において、「平安平」が**脂肪交雑で県内第 1 位**を獲得しました。脂肪交雑育種価 +2.735 後代数 18 頭

【平成 27 年度の新体制】

新年度の畜産研究所はスタッフが大きく入れ替わり、新採用職員も入りました。フレッシュな体制で生産者の方々の所得向上に直結する成果を出すよう取り組んで参ります。

＜新任職員＞

所 長 石山 治
 (和牛改良技術部長から)
 研究管理監 村田憲昭
 (酪農飼料環境部長から)

●本所庶務担当

主幹 蛭名清人
 (営農大学校から)
 主事 木村祐也
 (県庁農村整備課から)

●繁殖技術肉牛部

部長 平泉真吾
 (研究管理員から)
 研究管理員 赤沼 保
 (十和田家畜保健衛生所から)

●中小家畜・シャモロック部

研究員 水木若菜
 (新採用)
 技能技師 清水目一志
 (営農大学校から)

●酪農飼料環境部

部長 根城伸悦
 (県庁畜産課から)

●和牛改良技術部

部長 高橋 巧
 (繁殖技術肉牛部長から)
 研究管理員 阿保洋一
 (県庁畜産課から)
 主査 楠美直子
 (西北地方漁港漁場整備事務所から)
 技能技師 代田直規
 (新採用)

＝新採用職員の紹介＝

～中小家畜・シャモロック部～

今年度、新採用者として新たに畜産研究所のメンバーに加わった「水木若菜（みずきわか）」研究員を紹介します。

鶏の飼養技術の試験を担当し、名前のとおりのみずみずしい若菜のように新しい環境の水をグングンと吸収しながら成長しております。今後の活躍をご期待ください。



《自己紹介》

帯広畜産大学を卒業し、今年度から畜産研究所で勤務することになりました。

まだまだ分からないことが多く、今は毎日が驚きと発見の連続ですが、日々汗水を流しながら成長し、立派な大木のような研究員になることが目標です。

地元である青森県に貢献できるように一生懸命努力します。よろしくお願いいたします。

＜鶏の雛の購入ご案内＞

鶏の雛をご購入希望の方は、青森県産業技術センターのHPをご覧ください。畜産研究所中小家畜・シャモロック部までお問い合わせください（直通電話 0175-64-2790）。

【各部の情報】

～繁殖技術肉牛部～

＝モデル農家に経膈採卵・体外受精技術（OPU）を紹介＝

去る5月7日に上北地域県民局と合同で先進的モデル農家を対象に経膈採卵・体外受精技術の紹介を行いました。

当日はモデル農家ほか関係機関の指導者など 20 名が畜産研究所に集合し未経産牛での OPU を実施しました。1 時間で 15 個の卵子が採取でき体外受精で 5 個の受精卵が生産できました。

本技術は従来法に比べ牛への負担がなく手軽に受精卵を生産できるため、参加者からも自分たちの地域で優良牛を生産するのについてつけだ！との声がきかれました。当所ではこの技術にさらに磨きをかけ、一般の開業獣医師に普及していきたいと考えています。



OPU を行う平泉部長

～酪農飼料環境部～

＝牧草の生育情報＝ 牧草の生育がかなり早くなっています！



走り穂



平年と本年（H27）との比較

今年は雪解けが早く、平均気温も 2℃ほど高めに推移したことから、牧草の生育がかなり早くなっています。5月10日の当研究所の調査（オーチャードグラス）では、草丈が平年に比べ 20cm ほど高く、生育が 10 日程度早くなっています。刈り取り適期を逃さず、栄養価の高い 1 番草を収穫するため、計画的な作業を心がけましょう。

～和牛改良技術部～

＝平成 27 年度現場後代検定用種雄牛＝（高光茂、大也）の紹介

和牛改良技術部では、今年度、新たな現場後代検定牛として「高光茂（たかみつしげ）」と「大也（だいや）」の 2 頭の種雄牛を選抜し、その凍結精液を県内の繁殖農家向けに配布しました。「高光茂」（一代祖「百合茂」、二代祖「第 1 花園」、三代祖「福栄」）は、体積に富んだ牛であり、直接検定では DG1.57kg と非常に優れた発育成績を残しました。

「大也」（一代祖「安福久」、二代祖「第 1 花園」、三代祖「平茂勝」）は脂肪交雑能力が期待され、体型にも優れた種雄牛です。これら 2 頭の計画交配はこの春から秋にかけて行なわれ、平成 28 年春から子牛が誕生し、平成 30 年度後半に肥育成績が判明する予定です。



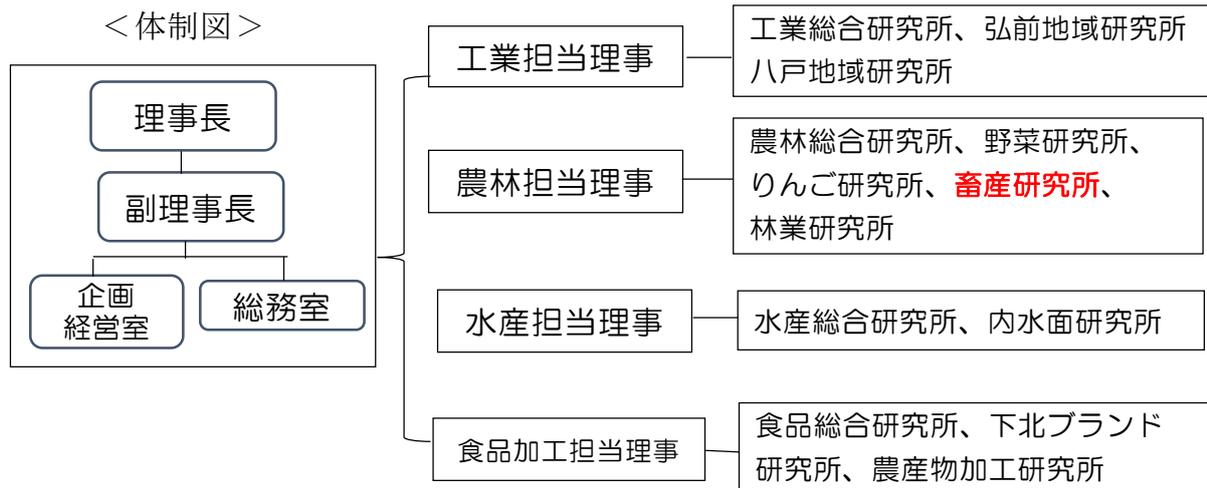
高光茂



大也

【ちょっと一服 青森県産業技術センターって何?】

平成 21 年度に地方独立行政法人として設置されました。本部は黒石市にあり傘下に工業、農林畜産業、水産業、食品加工の 4 部門 13 研究所があります。統合のメリットを発揮し幅広く農工連携を目指す地域に根ざした研究機関です。青森県の地域産業振興のため、新製品・新品種・新技術づくり、資源・環境調査、栽培・病害虫防除技術の開発などの研究や技術相談、依頼試験、研修・指導、産業育成に取り組んでいます。



青森県産業技術センターのシンボルマークは、工業、農林、水産の 3 分野で青森県を象り、英字略称 (A I T C) を添えたものです。

エネルギーから連想される赤が工業を、緑が農林業を、海の青が水産業を、それぞれ象徴しています。

地方独立行政法人 青森県産業技術センター 畜産研究所

(和牛改良技術部)

〒039-3156

上北郡野辺地町字枇杷野51

TEL 0175-64-2231

FAX 0175-64-2230

HP <http://www.aomori-itc.or.jp>

Youtube 公式チャンネル <http://www.youtube.com/user/aitcofficial>

〒038-2816

つがる市森田町森田月見野558

TEL 0173-26-3153

FAX 0173-26-3205

畜産の技術について何かありましたらお気軽にご相談して下さい。